

平成15年度学力向上フロンティア事業中間報告書

都道府県名	青 森 県
-------	-------

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	む つ 市 立 第 二 田 名 部 小 学 校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	3	3	4	3	5	26	
児童数	111	108	112	105	122	110	15	683	35

研究の概要

1. 研究主題

基礎・基本の確実な定着を図るための個に応じた指導の研究
 －算数科を中心として－

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

4～6年生・算数科T・Tの授業
 教科の特性を考えると、内容の系統性が明確にしやすいことと、基礎・基本をしっかりと身につけておかなければならないこと、学年が進むにつれて児童の理解の程度や、習熟に差が出やすい教科であるために実施する。
 2～6年生・算数コース別学習
 各学年で学級の枠を外し、個人の理解の程度に応じた少人数指導のコース設定をすることで、より個に応じた指導を試みるために実施する。

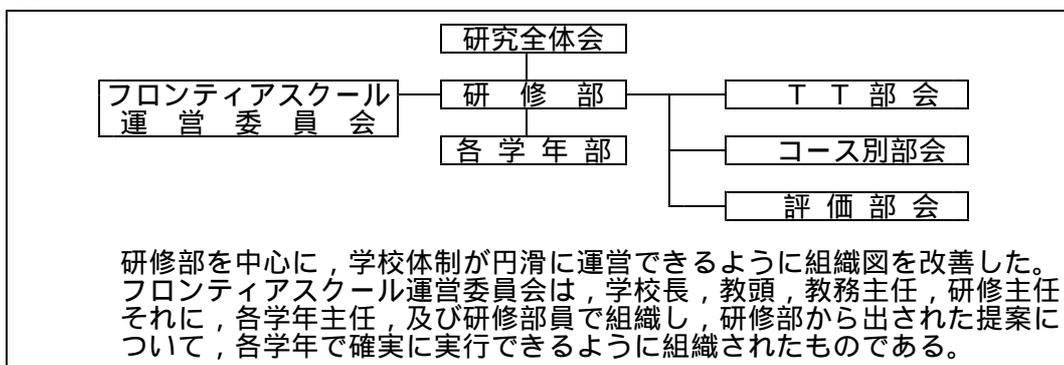
(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 基礎・基本の確実な定着を図るための個に応じた指導の研究</p> <p>仮説 発展的な学習や補足的な学習など個に応じた指導のための教材の開発や児童の理解や習熟の程度に応じたきめ細かな指導方法・指導体制の工夫・改善をすれば、基礎・基本の確実な定着を図ることができるであろう。</p> <p>研究内容・方法 (1) 習熟度別授業の実践 学習内容の確実な習得及び基礎・基本の徹底のため、学級の枠を越えた習熟度別授業を実施し、個々の能力・適性を伸長させる。学習内容は発展的・補足的なものを中心とし、指導のための教材の開発に努める。対象学年は2学年以上とし、保護者からの教育ボランティアを活用する。</p> <p>(2) T・Tの導入 算数科において、T・T体制をとることにより、個に応じた指導を通して基礎的・基本的な内容を身につけさせる。学級の実態に応じて週数時間の協同指導体制のもとに支援する。</p> <p>(3) 指導と評価の一体化の研究 学習評価を年2回にし、長期の見通しを持った授業実践を行う。年間指導計画における評価の規準と基準を明確にする。</p>
--------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

平成 15 年度	<p>テーマ 基礎・基本の確実な定着を図るための個に応じた指導の研究 －算数科を中心として－</p> <p>仮説 補充的な学習や発展的な学習など個に応じた指導や教材の工夫，児童の理解や習熟の程度に応じたきめ細かな指導方法や指導体制の工夫・改善をすれば，基礎・基本の確実な定着を図ることができるであろう。</p> <p>研究内容・方法 (1) T・Tによる授業の実践 算数科において，T・T体制をとり，個に応じた指導をすることにより，基礎的・基本的な内容を身につけさせる。 協同指導体制を定着させ，その効果的な指導法を工夫する。</p> <p>(2) コース別（習熟度別）学習の実践 学習内容の確実な習得及び基礎・基本の徹底のため，学級の枠を越えたコース別学習を実施し，個々の能力・適性を伸長させる。 学習内容は補充的・発展的なものを中心とし，指導の工夫及び教材の工夫に努める。 保護者による教育ボランティアを活用する。</p>
----------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

平成 16 年度	<p>テーマ 基礎・基本の確実な定着を図るための個に応じた指導の研究 －算数科を中心として－</p> <p>仮説 発展的な学習や補充的な学習などの個に応じた指導や教材の開発及び活用，児童の理解や習熟の程度に応じたきめ細かな指導方法や指導体制の工夫・改善をすれば，基礎・基本の確実な定着を図ることができるであろう。</p> <p>研究内容・方法 (1) T・Tによる授業の実践 算数科において，T・T体制をとり，個に応じた指導をすることにより，基礎的・基本的な内容を身につけさせる。 協同指導体制を定着させ，その効果的な指導法を工夫する。</p> <p>(2) コース別学習の実践 学習内容の確実な習得及び基礎・基本の徹底のため，学級の枠を越えたコース別学習を実施し，個々の能力・適性を伸長させる。 学習内容は発展的・補充的なものを中心とし，指導の工夫及び教材の活用に努める。 保護者による教育ボランティアを活用する。</p>
----------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

平成15年度は子どもたちの思いを把握するために、前期1回、後期1回の合計2回にわたって算数に関するアンケートを前期は7月に、後期は12月に実施した。

おおむね本校の子どもたちの傾向は次のように現れた。

Q1. 算数の学習は好きですか。 (%)

項 目	好 き	やや好き	やや嫌い	嫌 い
14 年 度	42	38	14	6
15 年 7月	41	35	17	7
15 年 12月	38	40	16	6

Q2. コース別学習は好きですか。 (%)

項 目	好 き	やや好き	やや嫌い	嫌 い
14 年 度	62	28	7	3
15 年 7月	70	21	6	3
15 年 12月	66	25	6	3

Q3. TTの授業はわかりやすいですか。 (%)

項 目	は い	ややそう	やや違う	いいえ
15 年 7月	40	40	17	3
15 年 12月	33	45	18	4

また、コース別学習については、自分の希望どおりのコースで学習できているかを問うたところ、以下のような結果が得られた。

Q4. コース別学習は自分の希望通りのコースですか。 (%)

項 目	は い	ややそう	やや違う	いいえ
15 年 7月	81	14	3	2
15 年 12月	81	16	2	1

これらの結果から、子どもたちの関心・意欲の度合いがうかがわれる。概して、算数科における子どもたちの意識や関心が高く、特にコース別学習においては自分の好きなコースで、自分なりのペースで学習に取り組んでいることが感じられる。これは、アンケートと同じく実施したコース別学習についての感想の中にもたくさん書かれていたもので、子どもたちの意欲の高さを感じることができた。

また、今年度4月に行ったNRT（集団基準準拠テスト）の結果を見ると、4教科ともほとんど、通過率が全国平均を上回り、相対評価による比較でも学力はある程度高いものと評価できる。これは、言い換えると、各学年で習熟しなければならぬ基礎・基本が全国平均以上の定着を示しているのと同じことと捉えることができる。

以下に、今年度行われたNRTの結果を掲載する。

各教科集計結果（４～６学年で実施）

【国 語】全国平均に対する本校通過率（％）

項 目	4 年	5 年	6 年	学校平均
話すこと・聞くこと	105	111	106	107
書くこと	110	116	108	111
読むこと	104	109	110	108
言語事項	110	110	109	110
学 年 平 均	107	112	108	109

【社 会】全国通過率（％）

項 目	4 年	5 年	6 年	学校平均
第一部	108	103	101	104
第二部	102	103	106	104
第三部	108	109	104	107
第四部			107	107
学 年 平 均	106	105	105	105

【算 数】全国通過率（％）

項 目	4 年	5 年	6 年	学校平均
数と計算	108	111	112	110
量と測定	103	109	119	110
図形	111	106	122	113
数量関係	108	111	111	110
学 年 平 均	108	109	116	111

【理 科】全国通過率（％）

項 目	4 年	5 年	6 年	学校平均
生物とその環境	105	101	109	105
物質とエネルギー	107	106	112	108
地球と宇宙	105	101	113	106
学 年 平 均	106	103	111	107

以上を踏まえ、今年度の成果を簡単にまとめると以下ようになる。
 ・主体的に学習に参加する子どもが増え、それに伴い学習効果もあがってきている。
 ・学習の流れが定着し、自分なりの考えを持って課題に取り組むようになった

- てきた。
- ・T Tの授業については、教師が2人いることで、より個に対応した支援をすることができるようになった。
 - ・教師の役割分担が明確になり、学習形態がはっきりしてきた。
 - ・コース別学習については、事前テスト等の実施により、子どもが自分に合ったコース選択をするようになってきた。
 - ・問題作成に工夫を凝らすことで、子どもたちが意欲的に学習に参加し、学習効果もあがっている。
 - ・教師自らが教材研究をより深めることで、指導と評価の一体化が図られ、子どもに対してもより突っ込んだ個別指導をすることが出来るようになった。
 - ・同一学年の学級間の学習の進度がそろい、計画的に学習できるようになった。

コース別学習を中心にした取り組みは、体制的にも子どもたちの中に定着し、子どもたちは意欲的に学習に参加している。これは、子どもたちのアンケートを見ても明らかであるが、何よりも子どもたちが楽しみながら学習し、そして、その結果として基礎・基本が定着してきたでことを考えると、本校の取り組みは間違いではなかったと断定できる。

また、その側面では、評価基準会議・進度調整会議を毎週実施したことで、年間計画を見直し、単元ごとのつながりや、単元全体を通した指導計画が立てられやすくなった。このことによって、教師自らの意識が変容してきたことも間違いのない。同一学年の学級間の進度調整ができることや計画的に学習できることは勿論、本校のテーマでもある、個に応じた指導がこのことによっても可能になったものと思われる。

次年度は、これらコース別学習の実践やT Tの授業の実践を継続し、より指導方法や指導体制の工夫をすることで、基礎・基本の確実な定着を図っていきけるよう努力していきたい。

2. 今後の課題

今年度の課題を各学年、そして全体で話し合い問題点を箇条書きで示すと、以下ようになる。

- ・算数の平常の授業の中での習熟の時間確保が難しい。
- ・自分なりの考えを持てるようになってきたが、説明したり表現したりする力がまだ十分とは言えない。
- ・T Tの授業については、教材研究や教師間の打ち合わせの時間確保が難しい。
- ・今年度は高学年のT Tを実施したが、手のかかる低学年にも導入できないか。
- ・コース別学習については、個に応じた指導を試みてきたが、結果として低位の子どもに対する指導のあり方や支援の仕方についてはまだ十分とは言えない。
- ・コース別の問題作成に関わって莫大な時間がかかる。

今年度は、T Tの授業、コース別学習を研究の中心に据え、各学年の取り組みを実践してきたが、T Tの授業は4～6学年で実施、コース別学習は2～6学年での実施であり、個に応じた指導の方法の目玉としては必ずしも全校体制で実施することはできなかった。そこで、個に応じた指導の充実を試みるために、授業における教材の開発、及び活用を全面に打ち出し、日常の授業を今まで以上に充実させるように試みていきたい。このことによって、各学年とも、日常の授業に更に力を入れ、子どもたちに関わっていくことができるものと考えられる。

また、教材作成に膨大な時間がかかったり、教師間の打ち合わせに時間がかかったりするという問題点も出された。コース別学習で使用するプリントについては、今年度作成したプリントの活用を図る事で、かなりの時間短縮が図られると思われる。更に、次年度は作成したプリントをコンピュータで一括管理し、学年間の自由な活用や効率的な活用を目指している。

更に、学校課題としてもあげられた表現力の育成についても、授業の中で意識的に話し合い活動を取り入れたり、発表の場を設けたりすることで対処していきたいと考えている。

これらの個に応じた指導の試みを通して、子どもたちの基礎・基本の確実な定着を図っていきたい。

学力等把握のための学校としての取組

本校で実施している各種調査について、調査の目的、実施内容、時期等の順に明記する。

- (1) NRT (集団基準準拠テスト) の実施
児童の学力を相対的に判断し、学習状況の変容を捉え、今後の指導に活かすために実施。
国語、社会、算数、理科の4教科について、4～6学年で実施(今年度) 4月下旬
- (2) 児童・教師アンケートの実施
児童及び教師から授業について、または指導のあり方等についての意識調査を実施し、今後の指導に活かすために実施。
2～6学年児童、及び教師に対して、選択式・記述式の2つの方法で記入させることで実施。
7月下旬、及び12月の年2回実施。
- (3) CRT (目標基準準拠テスト) の実施
児童の基礎・基本の定着の度合いを到達度で判断し、学習状況を把握するとともに、落ち込みに対する事後指導を講じるために実施。
国語、社会、算数、理科の4教科について、1～6学年で実施
(1～2学年は、国語、算数のみの実施)
2月上旬

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

研究会、説明会等の開催実績及び公開、今後の開催予定について、日時、場所、対象、会の目的等の順で明記する。

- (1) 平成15年度小・中学校教務主任研究協議会
平成15年5月19日(月)
むつ合同庁舎にて
下北地区小・中学校教務主任対象
教務主任研究協議会において、本校のフロンティアスクールの趣旨、及び研究の概要を紹介した。
- (2) 校長研究協議会
平成15年7月7日(月)
むつ合同庁舎にて
下北地区小・中学校校長対象
校長研究協議会において、本校のフロンティアスクールの趣旨、及び研究の概要を紹介した。
- (3) 平成15年度小学校教育課程下北地区集会
平成15年8月8日(金)
むつ市立苫生小学校にて
下北地区小学校教職員対象
教育課程地区集会において、本校のフロンティアスクールの趣旨、及び研究の概要を紹介した。
- (4) 平成15年度公開発表会の実施
平成15年11月26日(水)
むつ市立第二田名部小学校にて
下北地区小中学校、及びフロンティア事業研究推進校教職員対象
平成15年度の本校のフロンティア事業研究推進校としての取り組みを広く普及し、研究の概要を紹介し、他地域への啓発を図るとともに、広く意見を求め、本校の研究を深めるために実施した。
当日は、下北管内はもとより、県内外各方面から約140名の参加者をいただき、活発な意見交換をすることができた。

なお、平成16年11月26日(金)にも公開発表会を実施を予定。

研究成果普及のためのHPの作成について
(1)平成15年年8月25日 ホームページ開設
ホームページアドレス～ <http://www.7-dj.com/makinoko/>
(2)平成16年2月1日現在の状況
約1130名のアクセスあり。今後も定期的に更新を繰り返していく。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無